

園内研究

『豊かな表現力を育てる指導法の工夫～かくこと・つくることを通して～』

上ノ原幼稚園では、2010・2011 年度「体づくりの指導法の研究」、2012・2013 年度「“食育”に関する指導法の工夫」と題して、園内研究に取り組んできました。

今年度は、幼児期に自由な発想で絵画や造形に取り組むことを通して、子どもたちに秘められた力を引き出すことができれば、と願い、幼稚園教育要領の意図を理解し、「表現」の分野から研究を始めることとしました。

横山裕先生を講師にお招きして、ご指導いただきながら、子どもたちが楽しんで表現できたり、自分で感じたことが表現できたりするためには、子ども自身が獲得した力をどう表現していくか、子ども自身がもっているものを自分でどう表現するか、そのための相応しい指導法を学び、実践へとうつつしていきました。

表現

幼稚園教育要領より

「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、
豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」

ねらい

- ・いろいろなものの美しさなどに出合い、様々に表現することなどを通して豊かな感性をもつこと
- ・生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむこと
- ・いろいろな素材や表現の手段の特性を知り、表現する楽しさを味わうこと

ことり組(3 歳児)	・身近な素材や用具を使って、好きなように描いたり作ったりして表現する楽しさを感じる。
うさぎ組(4 歳児)	・様々な素材にかかわり、作った物を使って遊んだり、保育者や友だちと一緒に身の回りを飾ったりして楽しむ。 ・自分なりに工夫して表現することを楽しむ。
きりん組(5 歳児)	・動きや体を意識した表現を楽しむ。 ・経験したこと、感じたこと、考えたこと、イメージしたことなどを、様々な方法で自分なりに表現する。

実践

3 歳児 ことり組

◇スポーツデー応援旗 より

『いろいろな色使いを楽しんで 虹色のおひさまたち』

- ・いろいろな色を使ってクレヨンで描くことを楽しむ。
- 子どもの表現を引き出せるよう、まず、虹色のおひさまのお話をし、それから円を描いていった。
自ら自信をもって描こうとする子ども、保育者がそばで見守ることにより安心して描ける子どもの姿があった。表現することの楽しさにつなげるための、大切なポイントであると考えられる。
- 「ぼくのは明るいおひさまなの」「お化けのおひさま」「元気なおひさま」などと、いろいろな色を楽しんで描いたそれぞれのイメージのおひさまとなった。
- 3 歳児では円を描くという手の動きがまだ難しいと思われたが、円を描くこと一描くための力を獲得したことがわかった。

◇秋の遠足 より

「ふわふわ温かい、モルモットをかこう」

- ・絵の具と筆の扱い方を知りながら、絵の具を使ってモルモットの温かさを表現する。
- ・遠足での思い出を振り返りながら、楽しんで描く。

- モルモットを実際に抱っこし、後日、その時の感触や、愛おしく感じた気持ちが心に残っていて、思い出す表情も笑顔だった。
- 初めて絵の具を使用したけど、モルモットの温かさを思い出しながら描いたため、筆をゆっくりと丁寧に扱い、一匹を丁寧に塗っていた。
- 自分が経験したことを表現する活動だったので、子どもたちがより楽しく、豊かに表現できた。



4 歳児 うさぎ組

◇スポーツデー 応援旗 より

「すいすいおよぐ・・・ おさかなさん どこ行くの？」

- ・クレパスや絵具を使って、素材感や配色を楽しむ。
- いくつかの魚の絵本やイラストを用いながら、好きな魚を描いていったので、具体的に描きたい魚のイメージが湧き、絵に苦手意識がある子どもも意欲をもって描いていた。
- クレパスで、中心からぐるぐると塗り広げる表現で形を描いたことで、肉付けの仕方を獲得できてきたと思われる。
- 元気よく泳げるのはどんな感じかな？と子どもの意見やイメージを引き出しながら、自分の描いた魚にあった背景を絵の具で配色した。絵の具や筆、水入れの使い方を知ることもつながった。

◇秋の遠足 より

「本物そっくり！ みんなで掘ったおいもをつくろう」

- ・自分たちが掘ったさつまいもに触れ、形、重さ、固さなどを感じながら、さつまいもの立体製作を行う。
- 遠足前より、後の方がさつまいものイメージが具体的になり、それぞれが自分の思うさつまいもの形を作ろうとしていた。新聞紙やわら半紙で形作ったあと、土のついたさつまいもを見ながら絵の具で着色した。
- クラス全員の作品を一本のつるにつないだことで、自分の作品を見つけることを楽しんだり、友だちとの作品の見比べたりでき、子ども同士で感想を述べ合えた。より本物に近い感覚が味わえた。

「さつまいもはどんな形かな？ よく見て描こう」

- ・さつまいもの形のほか、表面の様子や色にも注目し、よく見て描く。
- クレパスで輪郭を描いたので、上から絵の具を塗ってもさつまいもの表面の細かい傷や穴などの表現がよく生かされた。はじき絵の楽しさも知った。

■目の前のものを描くという写生だったが、何を？どこを？見て描いたらよいか、という“ものの見方”が発達年齢段階ではまだ難しく思われ、自分のイメージしたさつまいもを描いている子どももいた。



5 歳児 きりん組

◇スポーツデー 応援旗 より

「今日はいいい天気！なにしてあそぼうかな。」

・自分の身体の動きや仕組みに興味を持ち、イメージしたことを絵で表現する。

■身体の仕組みを知り、意識しながら絵を描くことで、手や足の動きを表現することができた。

胴体→頭→足→手と順をおって描くことで、全身のバランスのとれた身体を描くことができた。

■顔や洋服の色がつくことで、楽しさが伝わってきた。

■子どもがその動きを描くことには、表現したいことが含まれているので、子ども自身の力で表現したことで、自分の表現のイメージが出てきた。

◇秋の遠足 より

「どんなさつまいもが掘れたかな？じっくり見てみよう。」

・自分たちの掘ったさつまいもをじっくり見てさつまいもを知る。

■遠足前に、さつまいもを掘った時に見る視点を3つ(①葉の大きさ・形・色②どのようになっているか③根っこの色・におい)決めていたこともあり、じっくりとさつまいもを見てみようとする姿が見受けられた。事前の声掛けにより、表現の幅を広げることとなった。

■さつまいもや葉をよく見て、細かい傷やひげがあることにも気づくことができた。

■鉛筆で下書きをした後、色鉛筆で塗ったため、色を重ねて混ぜることで、より本物そっくりのさつまいもの絵が完成した。下書きの上からはみ出さないように塗ることに真剣に取り組んでいた。

